

MMQCニュースは、丸1年が経過しました。毎月の発行なので「ネタ」数に心配があったのですが、現実には、何の問題もなかったのです。今回も当社の戦略モットーである「コンタクト主義」の実例にそったものです。 栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、動きづくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「顧客接点戦略」②: 既存客の活性化

右掲は、お客様の売上高を多い順に並べたグラフです。「80:20の法則」という物がありますが、まさに、それを表したグラフになっています。「ロングテール層」と呼ばれる全体の8割を占めるお客様があるのですが、それぞれの取引額が少ないので売上の2割しかない事を表しています。このロングテール層の売上がドンドン減少して、極端な会社では、上位5%のお客様で全体の80%の売上を占めるという集中化が進んでいるのです。



このような状態から脱出するには、「売上」=「単価」x「数量」の概念から脱却して、「顧客数」と「頻度」の尺度を加えた

「売上」=「顧客数」x「単価」x「頻度」

という概念が重要になって来るのです。右下の「ちらし」は、ある工具屋さんのFaxで行う販促事例です。例えば、1,000社の顧客があっても売上は上位のお客様に集中しているので、800社のお客様は微々たる金額(年間数万円)の取引しかないので、この800社を活性化

$$\text{①1万円} \times \text{12ヶ月} \times \text{800社} = \text{9600万円}$$

となり、約1億円の増収となるのです。少額でも毎月購入してもらうと言う「頻度」に焦点をあてた戦略なのです。

ロングテール層が活発になると相乗効果で上位も伸びる

というビックリする現象が起こり非常に忙しくなるのです。何故なら、「ちらし」にある蛍光灯は、約30%すなわち1,000社なら300件も購入してくれるので、いわゆる「バイイングパワー」がアップして仕入単価がさらに低くなり競争優位が高まるのです。この30%というレスポンス率は、何も机上の空論ではなく、実際のお客様での数値なのです。もちろん、蛍光灯なので「年末」と「安い」という2要素が大きく作用したと思われそうですが、他の業界でも既存客へのDMであれば、30%は実現可能なレスポンス率なのです。

この事例のお客様では、「ロングテール層」が活発化して、「ちらし」以外の注文が来るようになり、急激に納入作業が増加して多忙な毎日を送ってられます。「売上」=「顧客数」x「単価」x「頻度」という公式なのですが、「単価」を低くして「頻度」を増やすことによって、自社への「買いクセ」をつけるという事で「売上」を増やすことになったのです。

このように「ロングテール層」にFaxで情報発信するだけで、「休眠」状態だったお客様との関係が改善されて、少額なオーダーの頻度が多くなり「ザイアンスの法則」の通り、単純接触の回数で他社を圧倒して「自社顧客」化して行くという戦略なのです。

年末大感謝セール第2弾!
第1弾の爆発打は、お座席で大変売れ残りました。またのお祭りに、20周年に、ぜひ、ご購入の機会を逃さず。また、さらにお客様満足度0.48%引きと驚愕的な価格でご提供できます。特別企画として、12月中にこの「マルク」の速達に搭載の商品をお買上げ頂きまして、植物性20%の割合で年により「Green Series」を1アップさせていただきます。12月31日までの限定です。詳しくはお問い合わせください。

2010年の2週間に連続して大特価セール(他社に負けない価格)!

① **ダイニテ機器器具(全製品)**
今年はお買い得です。そこで、緊急企画として**ダイニテ機器器具 48%OFFセール**を行います。①94,800円を **49,300円** (税別)

② **日立の蛍光灯**
40W昼白色 FLR40 SDX80-B 400個を FLR40 SW M85-B 400個に **77%OFF** (税別) **3,375円** (税別)

新製品も思い切って大特価!

③ **αケミカルスプレー ジェンボ街シリーズ(840ml)登場!**
発売を記念して、当社独自の企画として **各種類 先着20本限定 全種類 48%OFF** (税別) **733円** (税別)

大好評の定番消耗品!

④ **金の卵(卵石)**
50+5粒セット 先着20セット **7,400円** (税別)

⑤ **ストレッチフィルム**
1ケース(6本入り) 長さ300cm 幅100cm **3,600円** (税別)

⑥ **まわり君**
本編記念品のうち **どれか1つだけ** **48%OFF** (税別) **2,850円** (税別)

丸福産業株式会社

ワンポイント・アドバイス

「顧客数」x「単価」x「頻度」

この公式は何度もご紹介していますが、「頻度」という点に焦点を当て、ザイアンスの法則の通り回数で自社顧客化するのが。トップとしては、まとまった売上を期待するのですが、「急がば廻れ」なので、考えてみて下さい。

